

NICUにおける面会のあり方の検討

～両親へのアンケート調査より～

1-4 東 ○藤井由美子 谷岡みゆき 横山敬子
中本有香 松浦夕子 梶村光枝

I. はじめに

NICUは児の救命だけではなく、児の成長・発達、親子関係の形成の場である。したがって、児と両親にとって面会の重要性は高い。昨年、当院NICUで面会のあり方についてアンケート調査を行ったところ、面会方法の改善を求める両親の意見が多かった。両親の考えや想いを取り入れて、児や両親にとって良い環境を作り、親子の愛着形成を促進させる面会のあり方が重要だと感じた。そこで面会時間と回数の拡大、面会時の環境整備、看護師の対応の改善を試みた。面会方法変更後、再度両親にアンケート調査を行い、昨年のアンケート調査の結果と比較検討した。そこから、親子が安心して向き合える環境を整え支援するという『家族中心のケア』の指針を見出せたので報告する。

II. 目的

面会方法変更後の両親の満足度を知り、面会のあり方について再検討する。

III. 研究内容

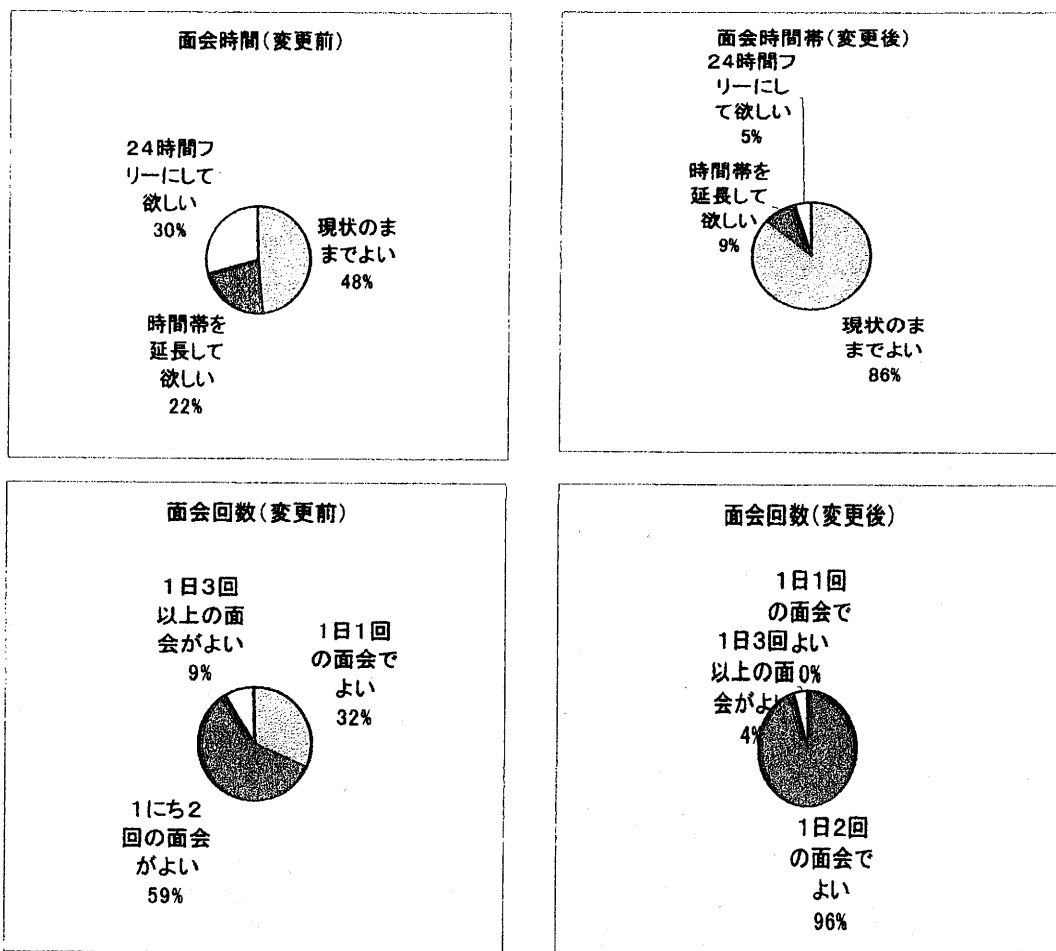
1. 対象：1週間以上入院の児の両親
2. 期間：平成16年5月21日～8月21日
3. 方法：NICU入院の児の両親にアンケート用紙を配布し、留置回収方法により調査紙を回収した。
4. 調査内容：①面会時間帯②面回数③面会者④面会時環境⑤看護師の対応の5項目と面会に対する思いの自由記載欄を設けた。新たに両親の入室した時間を調査した。
5. 分析方法：④⑤に関しては5段階尺度評価を行い各項目に平均点を求めた。逆転内容の項目については逆転の尺度評価を行った。
6. 倫理的配慮：研究目的を説明し同意を得られた両親に調査した。調査は無記名で行った。

	変更前	変更後
時間帯	13:00~15:00 18:00~22:00	12:00~24:00
回数	1日1回(時間制限なし)	1日2回まで(時間制限なし)
面会者	両親のみ	両親のみ

環境については3月末にNICU拡大工事が終了した。椅子やスクリーンを増やし、ゆっくりと過ごせる親子だけの空間作りやプライバシーの保護に努めた。また保育器間やコットの幅をできるだけ広く取るように心がけた。看護師の対応については両親へのかかわりを増やすためにおむつ交換や授乳の時はできるだけ親子の側にいるように心がけた。さらに、児の1日のケア内容や検査日、スタッフの行事を表示した。

IV. 結果

回収率92%（26名中、24名回収）、有効回答率100%であった。面会時間については「現状のままでよい」21名（86%）、「時間帯を延長して欲しい」2名（9%）、「24時間フリーにして欲しい」1名（5%）であった。時間帯を延長する理由としては「午前中にも面会がしたい」という答えであった。面会回数については「1日1回でよい」0%、「1日2回の面会でよい」23名（96%）、「1日3回以上がよい」1名（4%）であった。面会者枠については「両親のみ」7名（29%）、「祖父母面会」16名（67%）、「その他：同胞面会」1名（4%）であった。（図1）



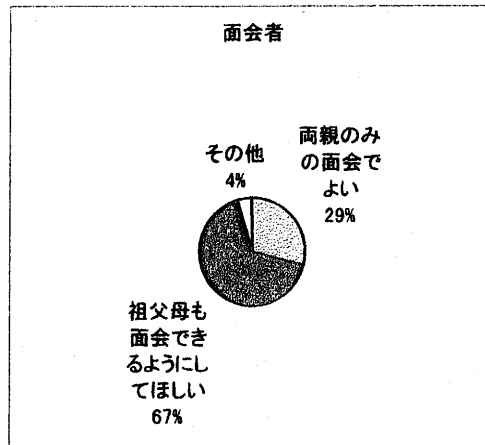


図1. 面会方法について

面会時環境については、前回満足度の低かった3項目「ゆっくりと児と過ごせる広さがあった」5段階尺度評価による満足度の平均点3.48（前回比+1.0）、「ゆっくりと児と過ごせる空間があった」4.26(+1.2)、「器械音が気にならない」2.96(-0.3)であった。「広さ」と「空間」に対しては大幅に満足度が高くなっていった。看護師の対応については、前回満足度の低かった3項目「心配な事・不安な事を看護師からたずねてくれた」4.35(+0.8)、「赤ちゃんに接するとき側にいてくれた」4.09(+0.4)、「育児を分かりやすく教えてくれた」4.0(+0.2)であった。いずれも満足度は高くなっていった。(図2)(図3) 両親の入室時間(図4)が示すように20時、21時、次いで12時台の面会が多く見られた。中でも12時台入室され沐浴と授乳をされる母親が多かった。20時、21時の面会は父親の仕事が終わるのを待って来院され抱っこやおむつ交換、授乳などのケアに両親揃って参加され、家族の時間を過ごされていた。両親のその他の意見として「祖父母、同胞面会の許可」「面会者の手洗いを徹底して欲しい」などがあった。

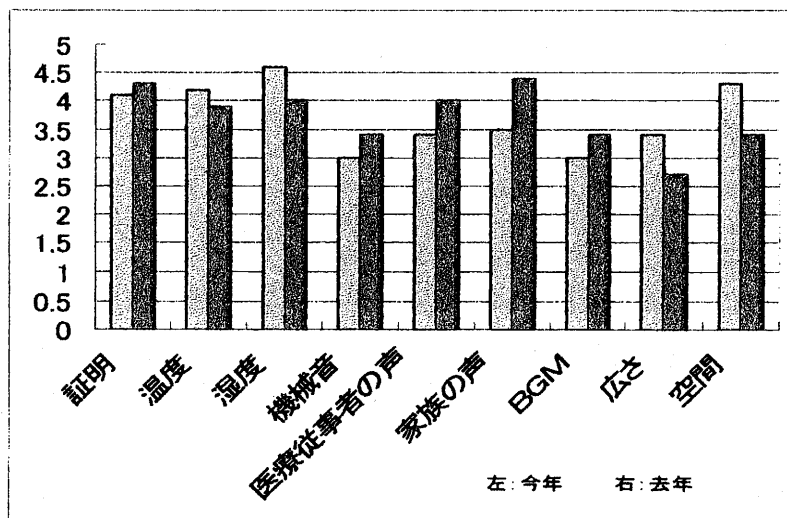


図2. 面会時の環境についての満足度

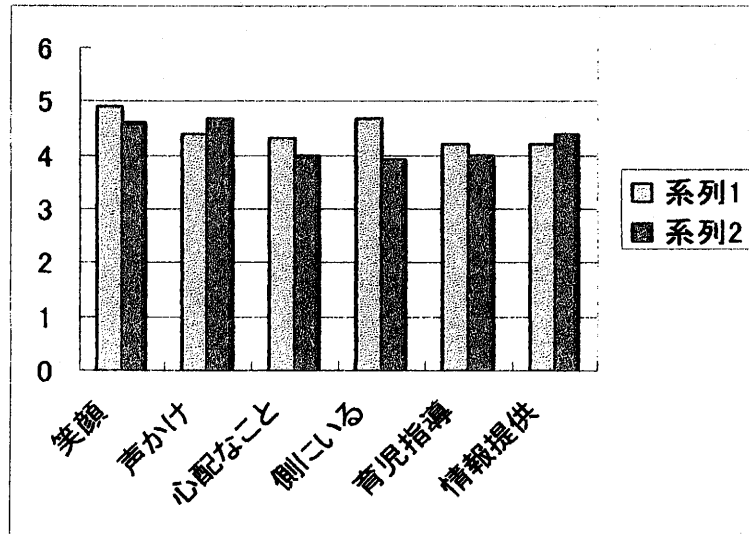


図3. 看護師の対応についての満足度

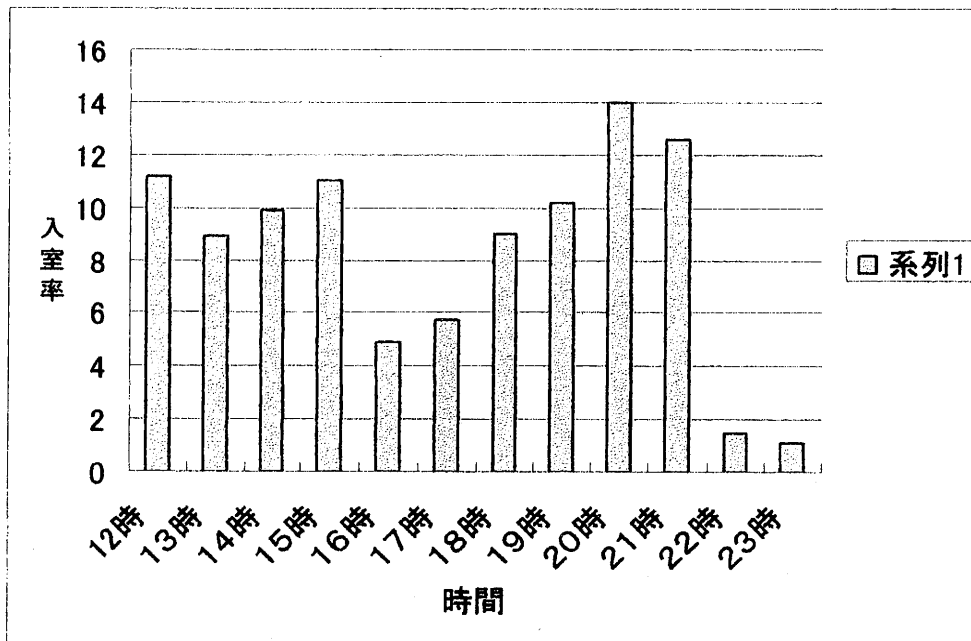


図4. 入室時間について

V. 考察

面会方法変更後、前研究に比べて両親の満足度が高くなっていた。これは面会時間と回数の拡大により両親が入室しやすくなったためと考える。さらに拡大した時間帯に授乳時間が含まれており、児と接する回数や児の養育に参加する回数が増えたことが関与していると考えられる。家族にとってケアに参加する機会が増えるとそれが家族で過ごす時間を増やすことにも繋がる。育児支援や親子の愛着形成の促進も期待でき、面会の拡大は児や両親

にとって良い影響をもたらしている。さらに拡大を求める意見として、「午前中にも面会がしたい」があった。処置や検査、ケアが午前中に偏るため、面会の対応が困難になることを理由とし、午前中面会を取り入れていない。他の施設では午前中面会や24時間面会フリーとし、両親が看護師と共にケアを行っているところもある。児の1日の様子を1つでも多く知り、少しでも長く児と過ごすことでより愛着がわくと思われる。また、ケアに参加することで児の退院後を見据えた指導が両親に早期に行えると考える。よってケアの分散化や業務の工夫を検討していく必要がある。

面会時環境についてはNICUの拡大工事により、実際にスペースが広がった。それに伴い面会時間・回数の拡大し、家族だけで過ごせる時間と空間が確保しやすくなった。また、家族を取り巻く環境作りではスクリーンを使用し、プライバシーの保護と家族だけの空間作りに努めた。しかし、堀内氏¹⁾は「完全に家族だけ放置されることは両親にとって必ずしも「うれしい」という側面だけではない。医学的にも心理的にも安全なことが保障されたうえでプライバシーの保持ということになる。」と述べている。したがって、スクリーンを使用する時はモニターが看護師から見えるようにして、見守っているという保証の元に行くことが大切である。次に前研究に比べて器械音（モニター音）が気になるという意見が多かった。モニター音は児の何らかのサインとなるため、面会時でも通常のモニター音にしている。堀内氏²⁾は「NICUに足を踏み入れた家族は慣れない光景の中でわが子と対面することになる。そのため両親は自分がその場に不釣り合いであると思い、親役割を果たすことができないので育児に参加する能力が育たなくなってしまうこともある」と述べている。それを踏まえたうえで両親に器械やモニター音の必要性をきちんと説明しておくことも大切である。器械音に限らず、NICUでは人の声が行き交い、作業音も作られる。看護師が自らを騒音源として認識し、注意深く洗練した行動をとることができれば児はもちろん面会に訪れる親にとっても、居心地の良い環境で過ごすことができると考える。

看護師の対応については、面会時間と回数が拡大されると対応について満足度は低くなると予測していた。しかし、両親の満足度は高くなっていた。面会の分散化は環境面だけでなくスタッフにもゆとりを与えたと思われる。面会の分散化により一家族に接する時間が増え、充実したケアを提供することができたと考える。実際、家族に接する機会の多い看護師は家族の不安な事、心配な事にもっとも早く気づける立場にあると考える。看護師として両親の児への関心の高まり、成熟や発達への気づきを支え、やってみたいこと、できることを両親と共に考え、児の状態に合わせて、ケア参加を援助していくことは両親の心のケアにも繋がる大切なかわりだと思われる。親、家族がディベロップメンタルケアに参加できるように、看護師は、NICUというストレスフルな環境の中で、親がケアチームの一員として確かな場と役割を獲得できるよう支えると同時に、親、家族のためのよきモデル、よきパートナー、よき導き手として役割を果たす必要がある。変更後のスタッフの意見として、「申し送りの時間に面会が重なると申し送りの内容が両親に聞こえるのではな

いかと不安に思った」があった。医師の意見として、「面会時間の延長により、主治医が不在の時間帯に面会される両親への病状説明ができないことがあった」その反面、「面会回数が増えて両親とコミュニケーションをとる機会が増えた」などがあった。今後スタッフ間で検討を行いスタッフにとってもよい面会方法を考えていかねばならない。

今回は実際にNICUに面会に来られた両親の満足度から面会の方向性を見出してきた。しかし、面会に自宅が遠方、手術後などという理由からで面会に来られない両親もいる。来られるのを待つだけではなくNICUのスタッフから積極的に働きかける（例：電話、病室訪問で児の様子を知らせる）というのも面会方法ひとつであると感じた。検討を重ね、より質の高い家族ケアを追及したい。

VIまとめ

面会方法変更後、両親の満足度の実態を調査し、検討を行い、面会の方向性「家族中心のケア」の示唆を見出せた。

1. 面会時間と回数の拡大は現在の方法で両親の満足度は高かった。
2. 面会時の環境は広さや空間に対して満足度は高くなっていった。
3. 看護師の対応については積極的に児や両親にかかわり、対応していくことができていた。
4. 両親が揃ってケアに参加できる家族の時空間が作られていた。
5. 「午前中面会」を導入するためにケアの分散化、業務の工夫などの検討が必要である。
6. 両親の持つ様々な背景や思いに心を配り、個々のケースにあった家族ケアを選択していくことが大切である。

引用文献

1. 堀内勁：NeonetalCare 2004 vol. 17 P10～14
2. 堀内勁：NeonetalCare 2001 vol. 14 P11～15

参考文献

1. NeonetalCare 1996 vol. 9 P19～24
2. NeonetalCare 2003 vol. 16 P18～33
3. NeonetalCare 2001 vol. 14 P10～14
4. 小児看護 25 (9)：1238～1242、